

中部支部

支部長 松原貴子

【活動報告】

1. 例年の行事

中部支部では、例年、6～7月に中部支部総会と研究集会、1～2月に支部研修会を開催してきました。残念ながら、今年度は両方とも新型コロナウイルス（COVID-19: Coronavirus disease 2019）感染症による影響を受けて中止となりました。次年度以降の行事予定は現在、内容・開催形式とも検討中となっています。皆様に早くお知らせできるよう取り組んでいきたいと思っております。

2. 日本死の臨床研究会第46回年次大会につきまして

中部支部および三重県内の会員を中心とした実行委員会が立ち上がり、開催に向けて本格的に準備を始めました。新型コロナ感染症による影響がどうなるか、予測が困難なため、①下記会場・日程での対面集合形式、②オンライン形式、③両方を組み合わせた Hybrid 形式など、様々な形態に対応することを想定したプログラム作りに取り組んでいます。

・開催概要（会場に集合する形式の場合）

(ア) 日 時： 2022年11月26日（土）・27日（日）

(イ) 会 場：三重県立総合文化センター
三重県津市一身田上津部田 1234

(ウ) テーマ

「いのちをつなぐ
～そのときをどう生きる？ どう支える？～」

・テーマについて

新型コロナ感染症の出現で日々の生活が激変し、自分の存在がどれほど多くの「あたりまえ」に支えられていたのかを実感させられました。失って初めて「自分を支えているものは何か」と向き合う日々です。

「穢れ」という概念がありますが、不浄という意味だけではなく、神宮の教えではもとの意味に「気が枯れる」という意味合いがあることを教えていただきました。「気が枯れる事」つまり「エネルギーの枯渇」です。人・土地、森羅万象全てのモノに宿っているエネルギーが枯れている状態を指します。これはまさしく「スピリチュアルペイン」の状況といえるのではないかと考えています。身近な死に接したものはお詣りを控えるようにという教えがあります。感染症予防の概念がなかった昔には、感染を持ち込まないという目的で接触者はその期間は出入りを避けるという意味もあったと推測されます。しかし、老いる・朽ちる・死も自然の摂理の一つですから、それを避けるべきと考える思想ではないのではないかと思います。不浄としということではなく、「つらく哀しいことに触れ、気力を失ってしまっているひとは、その死に向き合い自分の気持ちを整理し、回復をしていく大事な期間である。自分を癒す時間も必要だよ」という援助に満ちた思想が根底にあるようです。

いのちが有限であるがゆえ、断絶しないよう技術や知識すらも次の世代に伝承していくことに重きが置かれます。大きな自然・長い歴史の中での一人の人として、なにを受け継ぎ、次にどのように引き継ぐのかは大きな命題のように思います。

年次大会では、ひとりのひとが死を迎える際に焦点を向けてみたとき、「誰と誰がどのようにつながるとよいか」「いつかは死を迎える「私」としては、何をどのようにつないでいけばいいのか」を考える場になればとおもいます。

【入会のご案内】

中部支部では、随時新規会員を受け付けております。下記の事務局連絡先に、中部支部入会とし、お名前と連絡住所をメールもしくはFAXしてください。追って、申込用紙を返信いたします。

中部支部入会金：1000円 中部支部年会費：1000円

○問い合わせ先○

〒504-8601

岐阜県各務原市蘇原東島町4丁目6-2

公立学校共済組合東海中央病院

TEL ; 058-382-3101

FAX ; 058-382-1762

E-mail: miho.sawai@tokaihp.jp

担当者：澤井美穂